

(1) 定量分析結果 [%]

| 試料成分 | SiO ₂ | Fe ₂ O ₃ | Al ₂ O ₃ | TiO ₂ | CaO | MgO |
|-------|------------------|--------------------------------|--------------------------------|------------------|-------|-------|
| No. 1 | 71.03 | 3.64 | 20.10 | 0.465 | 0.405 | 0.892 |
| No. 2 | 68.93 | 7.19 | 17.82 | 0.465 | 0.579 | 0.732 |

※No. 1については、蛍光X線・粉末X線回折法や岩石学的方法による分析結果も得ている。

(2) 粉末X線回折法による定性分析結果

| 試料 | 検出鉱物 | | | | |
|-------|------|----|---|---|---|
| | Q | C | M | A | F |
| No. 1 | ++ | ++ | + | | |
| No. 2 | ++ | | | | + |

第1図

Q: 2-Quartz (SiO₂) C: 2-Cristobalite (SiO₂)

M: Mullite (3Al₂O₃ · 2SiO₂) A: Albite (NaAlSi₃O₈) F: Felspar group

検出鉱物については、最強線の強度の順位を++、+で表わし、おおよその目安とした。

〔測定条件〕 対照極: Cu フィルター: Ni 電圧: 35kV 電流: 20mA

時定数: /sec カウントフルスケール: 200cps 検出器: シンチレーションカウンター

(備考) No. 2 (土師器) についての粉末X線回折法による検出鉱物のうち、α-クォーツの存在は明らかである。その他に、何れかの長石、又はその混合物が含まれると考えられるが、明確なピークが得られないために、その鉱物名を特定することができず、長石類 (Felspar Group) とした。なお、粉末X線回折法による定性分析結果については、参考のため、測定チャートの写しを添付した。(第1図)

(3) 蛍光X線による出土土器の分析結果

1) 試料

(岩手県立博物館)

本遺跡出土の試料7点について岩手県立博物館に蛍光X線分析を依頼した。分析に供した試料は、

- No. 1. 酸化焰焼成の非ロクロ壺片(球胴形を呈す) 5号 (Cg06) 竪穴住居跡 (O-1)
 No. 2. 酸化焰焼成のロクロ成形環(本遺跡でC類としたもの)47号 (Pd15) 竪穴住居跡 (O-2)
 No. 3. 酸化焰焼成のロクロ成形環(// B類 //)47号 (Pd15) 竪穴住居跡 (O-3)
 No. 4. 還元焰焼成のロクロ高台環(A類の範疇) 10号 (Eb03) 竪穴住居跡 (O-4)
 No. 5. 還元焰焼成のロクロ成形環(本遺跡でA類としたもの)32号 (Lc33-2) 竪穴住居跡 (O-6)
 No. 6. 還元焰焼成の長頸壺 25号 (Jj12) 竪穴住居跡 (O-7)
 No. 7. 還元炉壁片 31号 (Lc33-1) 竪穴住居跡

等である。このうちNo. 1～6については、照井一明氏による“土器胎土の岩石学的方法による分析結果”も同時に得ている。右端に記したO-1～O-7の記号がそれに相当する。また、No. 6については岩手県工業試験場から“定量分析結果”、“粉末X線回折法による定性分析結果”等を得ている。試料No. 1がそれである。併して参照頂ければ幸いである。

2) 測定方法

土器片の不純な表面をタングステンカーバイト製のグラインダーを用いて削り落とし、新鮮な切片だけを取り出したものをそのまま試料とし分析に供した。

なお、測定条件は次に示す通りである。

| | |
|------------|------------------------------|
| 対陰極 | W |
| 電流・電圧 | 50KV-50mA |
| Full Scale | 2×10^4 CPS |
| 分光結晶 | LIF EDDT |
| 時定数 | 0.2 sec |
| 検出器 | シンチレーションカウンター、プロポーションナルカウンター |

(微量元素については、Full Scale 1×10^4 cps、時定数 1 sec にて測定を行った)

分析結果については、別表及びチャートを参照されたい。

表1 分析結果

| No. | 検出元素 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|------|----|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | Al | Si | K | Ca | Ti | Cr | Mn | Fe | Ni | Cu | Zn | Rb | Sr | Zr | Br | Ba |
| 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | tr | 0 | 0 | 0 | - | 0 | 0 | 0 | 0 | - | 0 |
| 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | - | 0 | 0 | 0 | - | 0 | 0 | 0 | 0 | - | 0 |
| 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | - | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | - | 0 |
| 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | tr | 0 | 0 | 0 | - | 0 | 0 | 0 | 0 | - | 0 |
| 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | - | 0 | 0 | 0 | - | 0 | 0 | 0 | 0 | - | 0 |
| 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | - | 0 | 0 | 0 | - | 0 | 0 | 0 | 0 | - | 0 |
| 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | - | 0 | 0 | 0 | - | 0 | 0 | 0 | 0 | - | 0 |

4. 鉄滓・鉄製品の分析結果

3点の試料についての分析結果である。試料No 1は46号(Oi33)竪穴住居跡出土の鉄滓、No 2は33号、(Li21)竪穴住居跡出土の器種不明鉄製品、No 3は39号(Me27)竪穴住居跡出土の鉄銛である。なお、No 2については、紡錘車の一部に相当すると思われる。

(1) 定量分析結果

表1 定量分析結果(%)

| 試料 | totale Fe | MnO | SiO ₂ | TiO ₂ | C |
|-------|-----------|-------|------------------|------------------|------|
| No. 1 | 46.57 | 0.064 | 25.76 | 0.340 | 0.14 |
| No. 2 | 58.09 | 0.013 | 6.99 | 0.084 | 0.63 |
| No. 3 | 61.78 | trace | 3.39 | 0.268 | 0.81 |

(2) 定性分析結果

表2 蛍光X線による定性分析結果

| 試料 | 検出元素 | | | | | | |
|------|------|----|---|----|----|----|----|
| | Al | Si | K | Ca | Ti | Mn | Fe |
| No.1 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.2 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.3 | | ○ | | | ○ | | ○ |

[測定条件] 対陰極:Cr(軽元素)・W(重元素)

分析結晶:EDDT(軽元素)・LiF(重元素)

電圧:50kv 電流:40mA 時定数:/sec

カウントフルスケール:10 cps(軽元素)・ $10^4 \times 2$ cps(重元素)

検出器:シンチレーションカウンター

表3 粉末X線回折法による定性分析結果

| 試料 | M | G | W | F | Q |
|------|-----|----|----|---|---|
| No.1 | | | ++ | + | + |
| No.2 | +++ | ++ | | | + |
| No.3 | ++ | + | | | |

M: Magnetite (Fe_3O_4) G: Goethite ($Fe_2O_3 \cdot H_2O$)

W: Wustite (FeO) F: Fayalite (Fe_2SiO_4) Q: α -Quartz (SiO_2)

検出鉱物については、最強線の強度の順位を+++、++、+で表わし、おおよその目安とした。

〔測定条件〕 照射機: Fe フィルター: Mn 電圧: 25kV 電流: 10mA

時定数: /sec カウントフルスケール: 1000cps 検出器: シンチレーションカウンタ

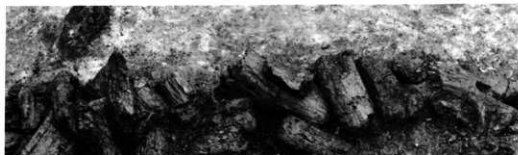
〔備考〕 粉末X線回折法による定性分析結果については、参考のために測定チャートの写しを添付した。(第1図)

5. 木炭について

7号 (Pb33) 竪穴出土の炭化材について、岩手県木炭協会経営指導員・早坂松次郎氏に依る肉眼的観察結果を得ている。

同氏に依れば、1図の炭化材はナラを原料としており、そのあり方は(1)製品化された木炭である: (2)燃焼時に於いて還元状態に陥った結果木炭化したもの、との二様が考えられるとしている。(1)については、使用目的があって製品化された木炭のことであり、(2)は焼失遺構・焚火等の段階で土砂がかぶり、結果として還元化された木炭になったもののことである。

本遺構内では、焼失遺構或いは焚火等の存在を想定し得る根拠はなく、また遺構内の炭化材がある程度まとまりを持っていることなどからみて、(2)に依る可能性は少なく、(1)に依る結果と理解している。従って、7号遺構は木炭置場のような使われ方をしたものであろうとの解釈も可能である。若しそうであるとするならば、炉壁や鉄滓が出土する遺構の近辺にあることから、製鉄等に関わる遺構の一部を構成するものとみることでも可能であろう。



6. 種子について (1図・表1)

種子については、村井三郎氏に依る種同定の結果を得ている。何れも桃の種子であり、現在種と同様のものである。

表1 種同定試料一覧表

| 試料No. | 出 土 地 点 | 備 考 |
|-------|----------------------|-----|
| 1 | N 351 ~ 253トレンチ I層 | 桃 |
| 2 | N 351 ~ 253トレンチ II層 | 桃 |
| 3 - 1 | 3号 (Ed56) 方形竪穴状遺構 3層 | 桃 |
| 3 - 2 | 3号 (Ed56) 方形竪穴状遺構 3層 | 桃 |
| 3 - 3 | 3号 (Ed56) 方形竪穴状遺構 3層 | 桃 |
| 4 - 1 | 3号 (Ed56) 方形竪穴状遺構 3層 | 桃 |
| 4 - 2 | 3号 (Ed56) 方形竪穴状遺構 3層 | 桃 |



1図 種子写真図

7. ^{14}C 測定結果

炭化材の ^{14}C 測定は、昭和56年5月9日を以って日本アイソトープ協会に依頼しており、その結果については、昭和57年1月23日に収受している。

二棟の竪穴住居跡と焼土遺構から各1点、合計3点の炭化材が試料である。各々の試料は、調査時点で取上げた後、密閉されたプラスチック製の容器或いはビニール袋に入れられ、本課で保管していたものである。プラスチック製容器内には脱脂綿が敷き詰められ、木炭はそれに包まれる形にあった。ビニール袋の方は気密性に欠け、湿気を帯びていた。なお、バインダー等の処理は特に加えられていない。但し、遺物採取から測定依頼までは約3年位の年月が経過している。

日本アイソトープ協会に依る ^{14}C 測定結果は下記の通りである。

| 依頼者のコード | 出土地点・層位・等 | 測定結果 |
|---------|-----------------------|-------------------------------|
| 8-1 | 56号 (Rh06) 竪穴住居跡・床面 | 1050±60yB. P. (1020±55yB. P.) |
| 8-2 | 14号 (Fe06) 竪穴住居跡・床面 | 1130±60yB. P. (1100±60yB. P.) |
| 8-3 | 20号 (Bd68-3) 焼土遺構・焼土上 | Modern |

8-1の換算年代はA. D. 900年であり、誤差を加減して算出すると840~960年内に求められる。同様にして8-2はA. D. 820年、760~880年内に求められる。これらについては、本遺跡の編年観に近い測定結果であると解釈している。一方、8-3はビニール袋に入っていた炭化材であり、焼土遺構の性格そのものも不明であったことから、試料の選択に適切性を欠いていたことは否めない。

付記

T H II-001竪穴住居跡 (付図2 第1・2図 写真図版50・77)

調査対象範囲の最南端(付図2)で検出された竪穴住居跡で、位置的に竹花前遺跡⁰¹と関連する遺構であり標記の名称を付した。

(重複 改築) 重複はなく、カマド移築の可能性がある。

(規模 平面形 方向) 東西2.75m、南北2.85m、面積7.02㎡の規模で、ほぼ正方形の平面を呈する。現存カマド方向軸はN-82°Eである。なお、想定される南カマドの方向軸は明らかでない。

(堆積土) カマド堆積土以外、主体は4層の黒褐色土である。1層の暗褐色土等の介在はあるが、4層はほぼ全面に堆積をみる。

(壁) やや外傾する立ち上がりで検出面までの高さは12cm~18cmほどを計る。

(床) 地山シルト面を利用するもので若干の起伏がある。

(柱穴) P₃・P₄の小ピットを認めるが柱穴として確証はできない。

(周溝) 認められない。

(カマド) 南壁東端もしくは東南隅にカマドが施設されたことも想定される。すなわち、断面E-F、G-Hの8層下に若干のくぼみもち火熱痕があることと、南壁東半にシルトによる袖様の残痕からである。煙道・煙出し等は認められず、現存するカマドの削平状況と考え合わせると削平も想定できるが明らかでない。

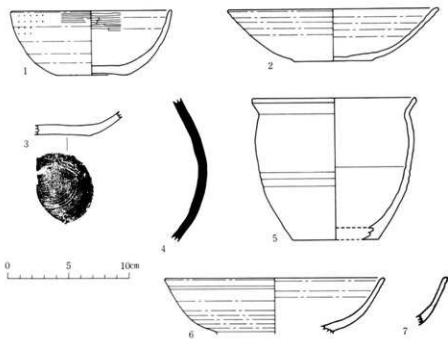
現存するカマドは、燃焼部が壁外まで張り出し、開口約55cm、奥行約70cmを計る。火床に若干のくぼみをみるが掘り方による構築ではない。袖はシルトと黒褐色土で構築される。煙道は削平によってほとんど残存しないが、約45cm東へのび煙出しに達するもので、先端の煙出しは30cm×35cmの楕円の平面で検出面からの深さは約10cmを計る。

(その他の施設) 貯蔵穴様ピットが2ヶある。P₁は55cm×60cm、深さ22cm、P₂は30cm×48cm、深さ10cm規模である。

出土遺物

環形土器は底部片を含めて3点ある。何れも回転糸切無調整による切離しである。A類は含まれない。No 4は中型甕の体部片、還元焰焼成によるものであるが叩目等は見られない。No 5はロクロ成形の小型甕、酸化焰焼成による。橙色を呈し、軟質である。No 6は緑軸陶器片、台付の皿形陶器である。No 7も緑軸陶器片であるがNo 6とは別個体のものである。これらについての詳細は、IV-①項を参照されたい。

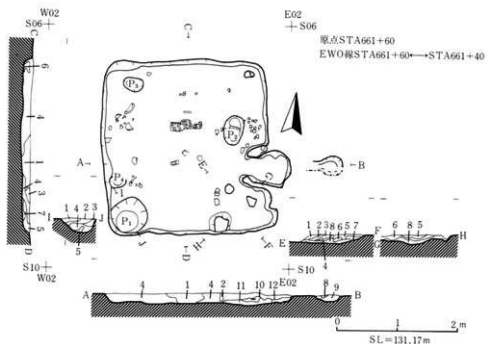
年代的には、太田方八丁遺跡より新しい時期であり、隣接する竹花前遺跡⁰²に包括されるべき



第2図 出土遺物実測図

遺構である。

注1・2 竹花前道跡 岩手県文化財調査報告書第54集所収 昭和55年3月



A-B・C-D

| | | |
|----|---------------|----------------------|
| 1 | 7.5YR/5 暗褐色土 | シルト黒色土混合土 |
| 2 | 7.5YR/5 褐色シルト | |
| 3 | 7.5YR/5 黒褐色土 | 焼土ブロックを含む |
| 4 | 7.5YR/5 * | シルト混入、炭、焼土ブロック、土器片若干 |
| 5 | 7.5YR/5 暗褐色土 | シルト黒色土混合土、焼土あり、炭若干 |
| 6 | 7.5YR/5 褐色シルト | |
| 7 | 7.5YR/5 黒褐色土 | |
| 8 | 7.5YR/5 褐色細砂 | |
| 9 | 7.5YR/5 黒褐色土 | シルト焼土混合、炭、土器片若干 |
| 10 | 5YR/5 緑褐色土 | 焼土黒褐色土混合、土器片、炭あり |
| 11 | 5YR/5 暗褐色土 | 焼土シルト黒褐色混合、特にシルト多い |
| 12 | 5YR/5 黒褐色土 | シルト焼土混入、炭若干 |

E-F・G-H

| | | |
|---|---------------|---------------------------|
| 1 | 7.5YR/5 暗褐色土 | シルト黒褐色土混合、焼土若干 |
| 2 | 5YR/5 緑褐色土 | シルト焼土黒褐色土、炭を含む、土器片あり |
| 3 | 7.5YR/5 褐色シルト | 黒褐色土混入、炭、焼土ブロック若干 |
| 4 | 5YR/5 暗褐色土 | 黒褐色土シルト混合、焼土、炭を含む |
| 5 | 7.5YR/5 暗褐色土 | * |
| 6 | 7.5YR/5 褐色シルト | 焼土ブロック、炭若干 |
| 7 | 7.5YR/5 * | 黒褐色土混合 |
| 8 | 7.5YR/5 暗褐色土 | 黒褐色土シルト混合、炭、土器片あり、層下火熱面あり |

I-J

| | | |
|---|---------------|------------------|
| 1 | 5YR/5 黒褐色土 | シルト混入 |
| 2 | 7.5YR/5 * | * * * 焼土ブロック、炭若干 |
| 3 | 7.5YR/5 褐色火山灰 | |
| 4 | 7.5YR/5 黒褐色土 | シルト混入 |
| 5 | 7.5YR/5 褐色細砂 | |

第1図 THII-001 竪穴住居跡

写 真 图 版



遺跡全景
写真図版 1



調査区全景 南から



調査区南辺外郭付近 東から



南边外郭
写真图版 3



築地と内外溝
東から



寄柱
掘り方断面



寄柱
掘り方断面

槽

北から



槽掘り方断面

No. 1



槽掘り方断面

No. 4





樽掘り方断面
No 5



築地内溝断面
A-B



築地外溝断面
A-B

築地内溝と小溝
東から



築地内溝断面
C-D



築地外溝断面
C-D

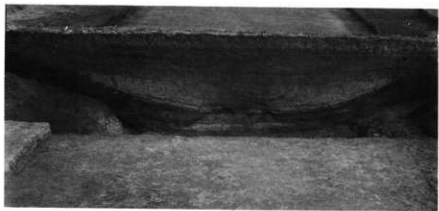


南(外)大溝
西から





南(外)大溝断面
A-B



南(外)大溝断面
C-D



土壘(?)状遺構
断面

1号住 北から



2号住 北から



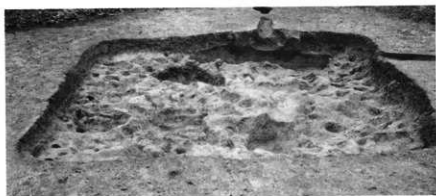
3号住 西から

1号溝





4号住 南から



5号住 南から

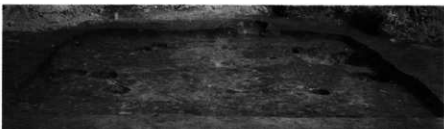


5号住
No2カマド

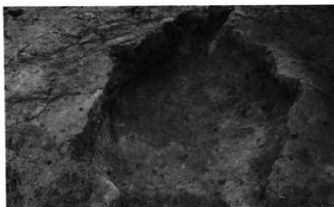
6号住 南から



7号住 西から

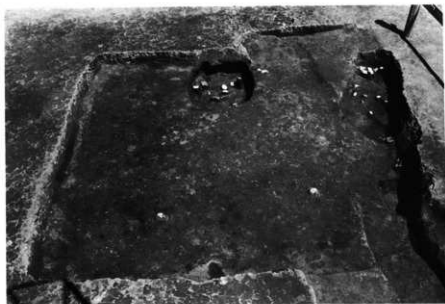


7号住 カマド



8号住 北から





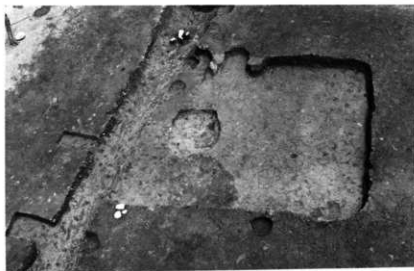
9号住 西から



10号-1・2住
南から



10号-1住
カマド



11号住 西から
2号溝



12号住 東から



13号住 南から



14号住 西から

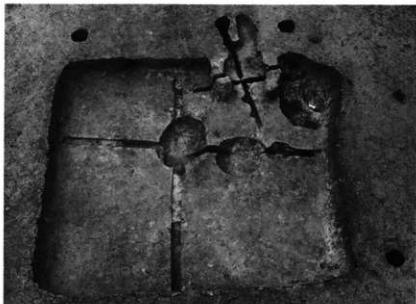


14号住 カマド



15号住 北から

16号住 北から



17号住 北から



17号住 No.2 カマド





18号住 西から



19号住 北西から



19号住
遺物出土状況

20号住 西から



21号住 西から



22号住 東から





23号住 西から



24号住 東から

1号 竪穴



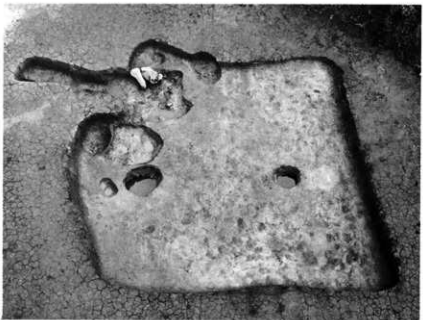
25号住

25号住

鉄鍬出土状況



26号住 北から



26号住 カマド





27号住 南から



28号住 西から

左 29号住
右 1号竖穴
北から



29号住
遺物出土状況



左 31号住
右 32号住
南から





33号住 西から



34号住 西から



35号住 西から

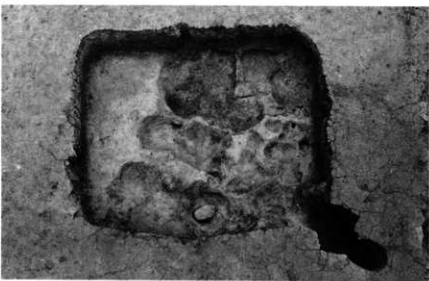
36号住 西から



36号住 カマド



37号住 北から





38号住 北から



39号住 南から



39号住
漆器出土状況

39号住

漆器出土状況

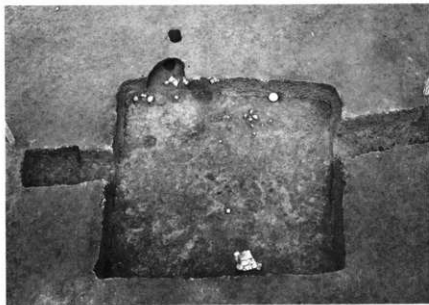


40号住 東から



41号住 北から





42号住 西から



42号住 カマド



6号 竪穴

43号住 北から



43号住
炉様施設



44号住 南から





45号住 南から



45号住
炉様施設



46号-1・2住
東から

46号-2住

炉体片分布状況



46号-2住

カマド



47号住 西から





47号住
遺物出土状況



48号住 東から

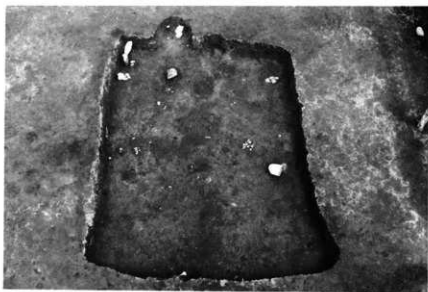


49号住 東から

50号住 西から



51号住 西から



左 52号住

右 10号整穴
北から





53号住 西から



54号住 西から



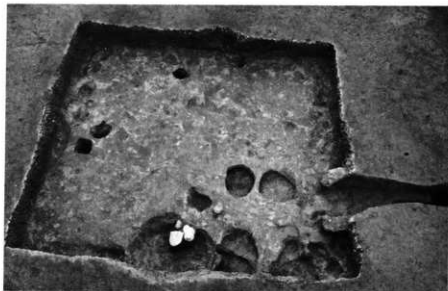
54号住
カマド支脚

54号住

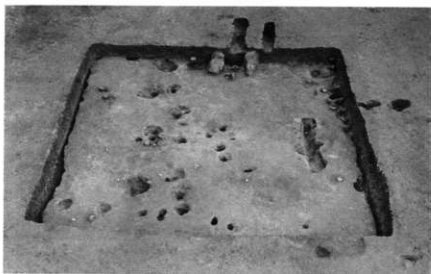
羽口出土状況



55号住 東から



56号住 西から





56号住

紡錘車出土状況

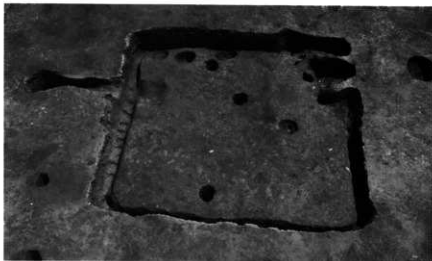


57号住 南から



58号住 西から

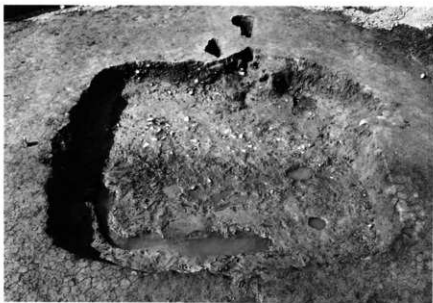
59号住 西から



59号住
漆紙出土状況

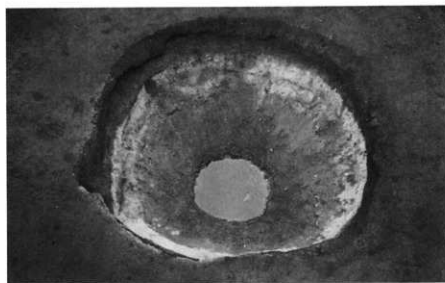


60号住 南から





61号住 南から



井 戸



井 戸 断 面

1号掘立柱建物跡

東から



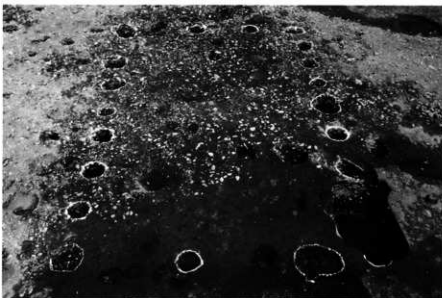
2号掘立柱建物跡

北から



3号掘立柱建物跡

南から





4号掘立柱建物跡
北から



5号掘立柱建物跡
北から



6号掘立柱建物跡
西から

7号掘立柱建物跡
北から



8号掘立柱建物跡
南から



9号掘立柱建物跡
南から

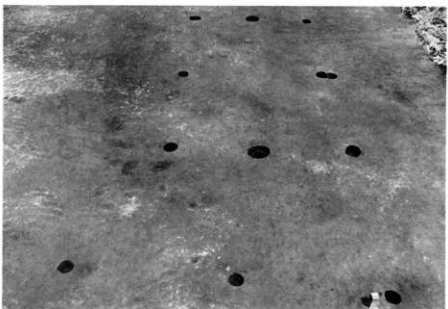




10号掘立柱建物跡
北から



11・12号掘立柱建物跡
北から



13号掘立柱建物跡
南から

14号掘立柱建物跡
西から



15号-1・2掘立
柱建物跡
東から



1号円形土壇





3号円形土坑



6号円形土坑



9号円形土坑

2-8号長方形土壇

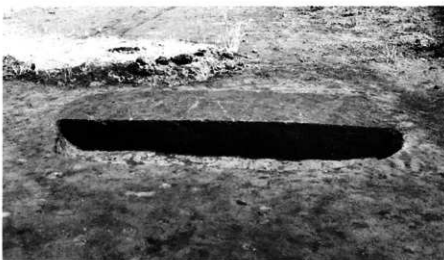
左から

2・3号 4・5号 6号 8号

7号



2・3号長方形土壇



4・5号長方形土壇





1・2号方形土坑

前 1号

後 2号



3号方形土坑



2号方形竖穴状
遺構

3号方形整穴状
遺構



1・2・4-9号焼土遺構
東から



1・2・5・6号焼土遺構
北西から

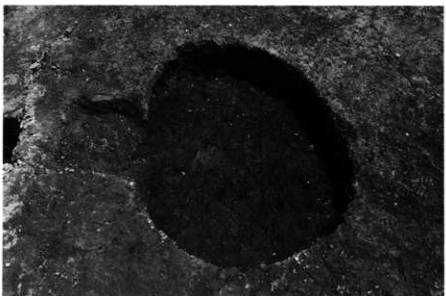




4号焼土遺構
東から



7・8号焼土遺構
東から



17号焼土遺構

19号 烧土遺構



20号 烧土遺構



21号 烧土遺構





23号烧土遺構



26号烧土遺構
直刀出土状況



32号烧土遺構

2 号 溝
断面



左 3 号 溝
右 4 号 溝
西から



3 号 溝
断面

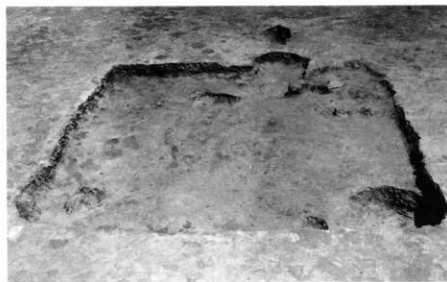




3 号 溝
断面



4 号 溝
断面



THII-001住
西から



1



2



3



4



5

1 - 3...2号住



6



7



8



9

4 - 7...3号住

8 · 9...4号住

10



11



12



13



14



15



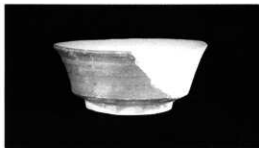
16



タタキ目拡大図

5 号 住

写真図版 52



17・18… 5号住

19-23… 6号住

24・25… 7号住

26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36



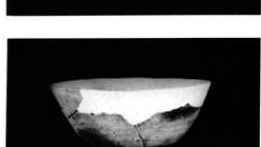
37



34…馬具 35・37…刀子片 36…釘



43…刀子 44…鉄鍬頭部片



38~44… 9号住

45~49… 10号-1住



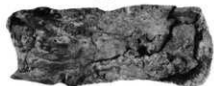
50



51



52



53



54



57



58



59



51…鑄製品 52・54…刀子 53…鉄斧

50-52…10号-1住 53・55…10号-2住

55・56…11号住 57-59…12号住



55



56

60



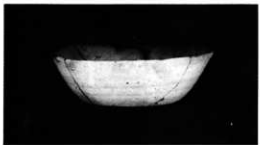
61



62



63



64



65



66



67



68



69



70



61・62…鉄鍍茎部片

63～67…14号住

68～70…15号住

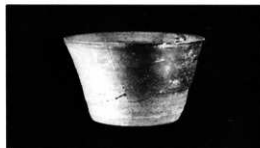
60～62…12号住



71



72



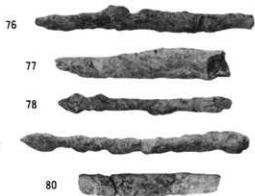
73



74



75



76

77

78

79

80



81



82



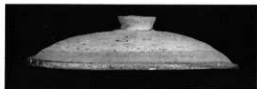
83

75…鉢形土器（須恵器）

76・77・80…刀子 78・79…鉄鏝

71～80…15号住

81～83…16号住



1

84



85



86



87



88



89



90



91



92

84-86...16号住

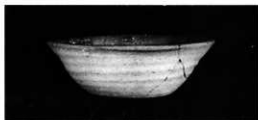
87-92...17号住



93



94



95



96



97



98



99



100



101



102



93・94…17号住

95～98…18号住

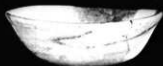
99～102…19号住

98…鏃子 102…直刀

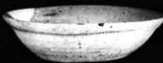
103



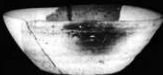
104



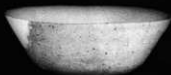
105



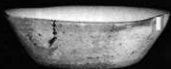
106



107



108



109



110



111



112



103…搦子 104…鉄籤

103・104…20号住 105…21号住

106-110…22号住 111・112…23号住



13



14



15



16

113…23号住 114…24号住

115—118…25号住



117



118



119

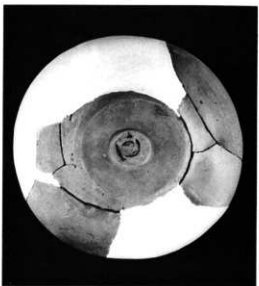




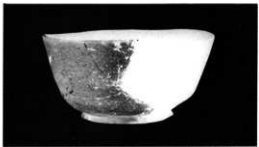
20



123



21



124



22



122…鉄針

120・121はセット（土師器）

120～123…26号住



125

124・125…27号住

126



127



128



129



130



126·127…28号住 128…29号住

131



132



133



134



129~131…31号住 132~134…32号住



5



6



7



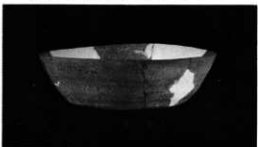
138



139



140



1



142



143



144



145



146

135~140...32号住
141~143...33号住
144~146...35号住

138...釘状製品
139...釘状製品
140...刀子片



147



148



149



150



149…不明鉄製品

150…簪子

154…鉄鍬

156…刀子

147～150…36号住

151～154…37号住

155・156…38号住



152



153



154

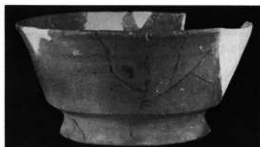
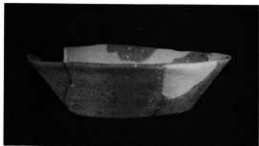


155



156

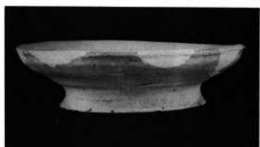




160



161



162



3



164



165



166



167



171



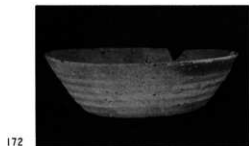
169



170



163-165-169...鉄鏃 164-170...針
 166...鏃状製品 167...不明鉄製品
 157-167...39号住
 168-170...40号住
 171...41号住



172



175



173



174



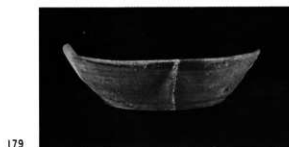
176



177



178



179



180



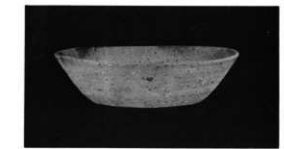
181



182

172~174...42号住 175(釘状製品)...44号住

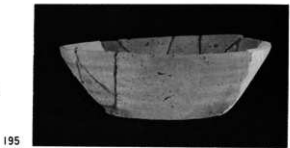
176~180...46号住 181-182...47号住



185-186…鉄鏃 187…不明(3個体合体)

188-190…刀子

183-185…47号住 186-189…50号住



190…51号住 191…53号住 192-196…54号住



197



202



198



203



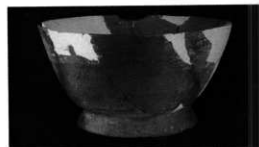
199



204



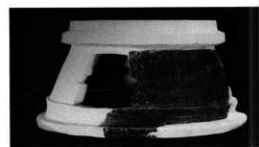
200



205



201



206

197...55号住

198-206...56号住



212

207



213

208



209



210

211



214



207…鉄斧 208…紡錘車

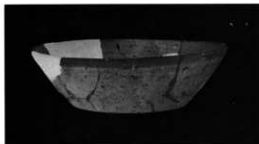
209・210…鉄線 211…土錘

207～211…56号住

212…57号住

213…59号住

214…61号住



5



16



17



18



219



220



221



222



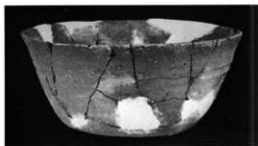
223



224



225



226

218·219…刀子 220…鉄鏃

221…種子 224…環状製品

215~221…6号整穴

222~224…7号整穴 225·226…9号整穴



27



235



228

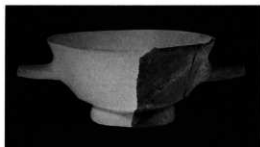
229

230

231

232

236



233



237



14



238

239

228・237…環状製品

229・230・231・232…釘状製品

233…直刀

238・239…鉄鏃(239は茎部片)

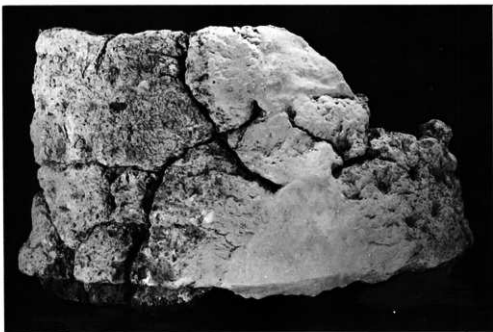
236…双耳環(須恵器)

227…138号住 228…5号 掘立柱建物跡

229・230…1号 方形土溝

231・232…A124焼土付近 233…26号焼土遺構 234…22号焼土遺構

235…32号焼土遺構 236…Qg12グリッド 237…表探 238・239…出土地点不明

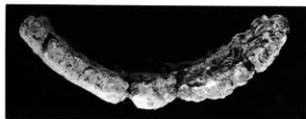


↑
断面は下方から。
炉の下端部に近い。

← 内面-断面-外面
厚さ・溶鉄含量からみ
て下端部に近い。

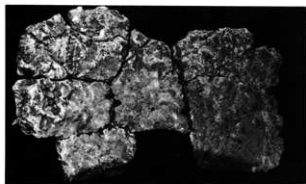
No.240の上方部分

壁肉が薄くなり、付着溶鉄
 滓量が激減する。

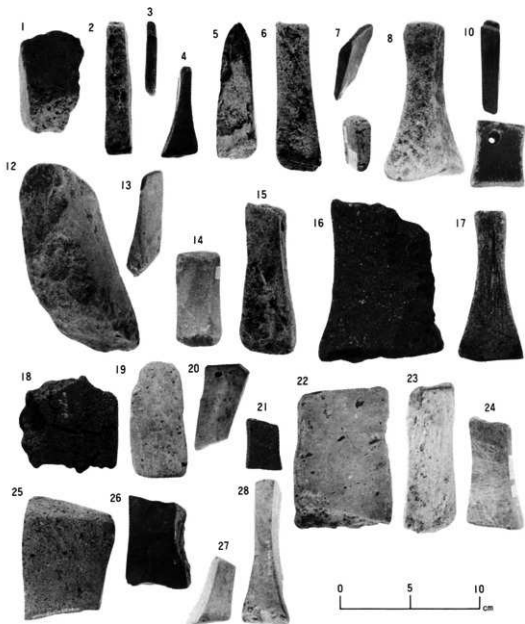


← 中間部分の炉壁片

内側に付着する溶鉄滓量は
 下方部分より少なくなる。



縮尺・任意



- | | | | | | |
|-------|--------|---------|------|----|---------------|
| 1 | 4号住 | 12 | 29号住 | 23 | 109号(H f 71)住 |
| 2 · 3 | 8号住 | 9 | 35号住 | 24 | 147号(Jg06)住 |
| 4 | 10号-1住 | 13 · 14 | 46号住 | 25 | 2号方形竖穴状遺構 |
| 5 | 15号住 | 15 | 48号住 | 26 | 検出面出土 |
| 6 ~ 8 | 19号住 | 16 ~ 18 | 51号住 | 27 | 出土地不明 |
| 10 | 22号住 | 19 ~ 21 | 54号住 | 28 | 出土地不明 |
| 11 | 24号住 | 22 | 59号住 | | |



1…焼物台(須恵器破片)・19号住出土

2…柱痕・5号掘立柱建物跡出土

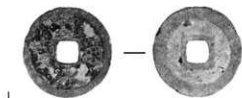
3…竈の羽口・54号住出土

4……竈の羽口・46号住出土

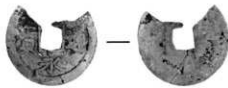
5……竈の羽口・47号住+49号住

6-8…緑釉陶器・TH₁₁-001住出土

(スケール任意)



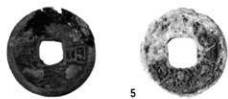
1



2

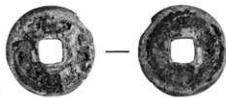


3



4

5



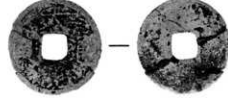
6



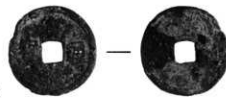
7



8



9



10



11

1 9号住…寛永通宝

2 67号住…寛永通宝

3・4 5号住…寛永通宝

5 B h 77グリッド……不明

6 B h 77グリッド…紹聖元宝

7 B h 77グリッド…太平通宝

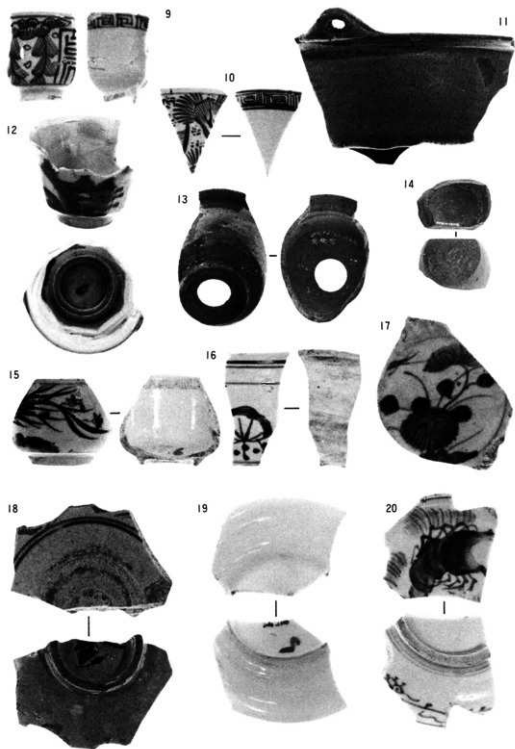
8 3号方形整穴状遺溝…寛永通宝

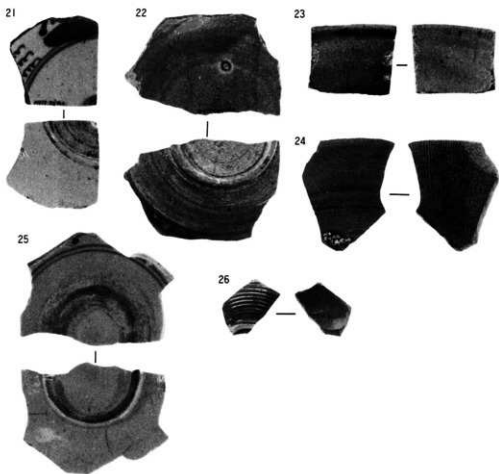
9 B d 09グリッド…大観通宝

10 Aブロック…寛永通宝

11 出土地点不明…寛永通宝







1 - 8 Aブロック

9 - 11 6号住

12 42号住

13 46号住

14 61号住

15 - 20 5号掘立柱建物跡

21 - 22 3号方形竪穴状遺構

23 3号溝

24 築地付近

25 - 26 出土地不明

岩手県教育委員会事務局文化課職員一覧

(埋蔵文化財関係)

文化課長 熊谷 正雄
 課長補佐(総務) 鎌田 良悦
 同(文化財) 服部 完郎
 庶務係長 鈴木 康之
 主 事 佐藤 伸一郎
 同 佐藤 貞行
 主任文化財主査 菊地 郁雄
 技 師 佐々木 勝

縦貫自動車道調査班

主任文化財主査 吉田 努
 文化財主査 齋藤 淳
 同 昆野 靖
 同 相原 康二
 同 八重樫 良宏
 文化財調査員 狩野 敏男
 同 田村 壮一
 主 事 石川 長喜

臨時職員 桜井 芳彦
 高橋 生子
 小西 エイ子
 漆原 悦子
 亀ヶ森 恭子(5月退職)
 藤原 周子(6月退職)
 後藤 裕子
 石田 千鶴子

村井 隆
 小林 史子
 村上 良子
 小林 三千江
 菊池 純子
 鈴木 優子
 秋葉 良子
 黒田 アヤ子(10月退職)
 長坂 麗子(10月退職)
 伊藤 ふく
 及川 容子(10月退職)
 前川 みどり
 佐々木 智子
 堀間 好子
 寺島 憲子
 真田 和子
 細矢 節子
 吉田 和子
 阿部 由美
 小山田 裕子
 吉嶋 登子(1月退職)
 佐々木 るい子

岩手県文化財調査報告書第68集
東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書XIII

昭和57年3月30日 発行

発行 岩手県教育委員会
盛岡市内丸10-1

印刷 株式会社 熊谷印刷
盛岡市上田一丁目6-49 ☎ 64151
